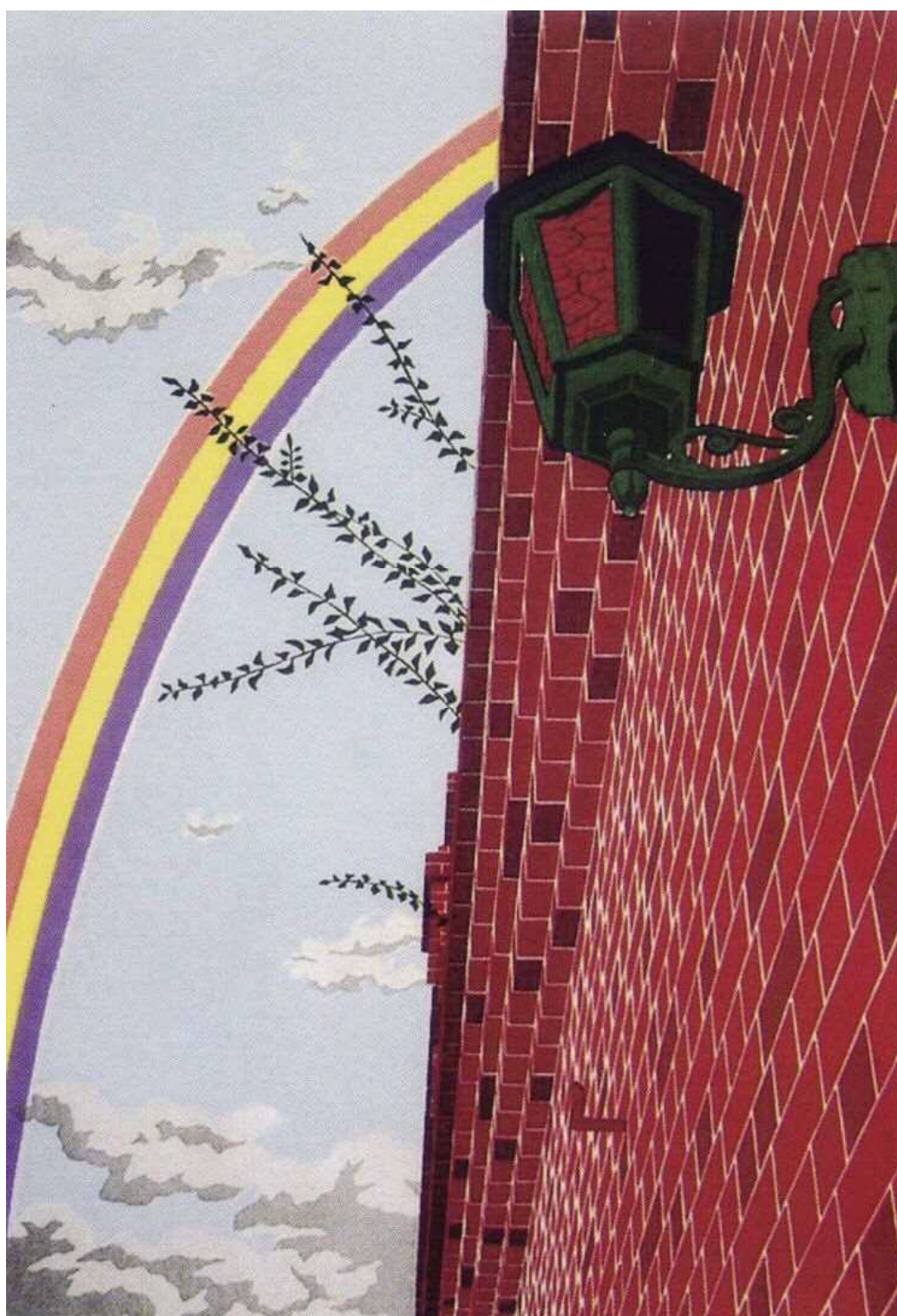


# いしづち

2017.7

No.117

公益社団法人 愛媛県建築士会  
<http://www.ehime-shikai.com>



故きをたずねて 内子の町並みと3件の芳我家  
くさぐさの風景 浄瑠璃寺の大賀ハスとアカンサス  
基礎のこと 愛媛基礎工事業協同組合の活動4

1	会長挨拶	新年度にあたり		寺尾 保仁 ……①
2	故きをたずねて	内子の町並みと3件の芳我家 (内子町)	文化財・まちづくり委員会委員長	花岡 直樹 ……②
3	くさぐさの風景	浄瑠璃寺の大賀ハスとアカンサス	松山支部	安藤 雅人 ……③
4	基礎のこと	愛媛基礎工事業協同組合の活動 4	愛媛基礎工事業協同組合	田中 清久 ……④
5	自然と家とにんげんと	お米づくりから	今治支部	橋詰 飛香 ……⑤
6	光のはなし	フランク・ロイド・ライトの建築見学 03	宮地電機(株)	田部 泉 ……⑥
7	雑想	心の新陳代謝	松山支部	玉乃井公和 ……⑦
8	支部報告	今治支部「平成29年度通常総会報告」 松山支部青年・女性委員会主催「勉強会」報告 松山支部青年・女性委員会主催「お花見」報告 松山支部青年・女性委員会主催「BIM(ビム)勉強会」報告	今治支部支部長 青年・女性委員会副委員長 松山支部 松山支部	石丸真智子 ……⑨ 大内 雄志 ……⑩ 近藤 岳志 ……⑩ 近藤 岳志 ……⑪
9	けんちくの輪	建築パースと私 五角形の洋館	新居浜支部 松山支部	中川 仁 ……⑫ 山本 晶子 ……⑬
10	お知らせ	第1回理事会概要報告		事務局 ……⑭

※ 尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



#### 版画

題：「虹立つ煉瓦館」  
山田 きよ

[表紙の版画について]

私がまだ幼い頃、きれいな虹を見ていると、そこにいたオジさんが「虹の下をくぐったら空からお金が降ってくるぞ!」と言うので、田んぼや畑の畔道を走り、虹をくぐろうとひたすら走って行ったのを思い出す。

おおず赤煉瓦館の空にアーチを描いて立つ七色の虹。そんな虹を眺めていると、くぐってみたいくなる思いにかられてしまうのだった。

表紙作者 山田 きよ プロフィール

1959 喜多郡五十崎町(現内子町)に生まれる  
1980 松山デザイン専門学校卒業  
1982 広告デザイン会社を退社し、家業の竹材業に就く  
1988 独学で切りぬき手法のシルクスクリーン版画を初制作以後、内子町内子座や大鳳合戦のポスターを手がける  
1993 初の個展  
2003 愛媛県文化協会奨励賞  
2012 個展回数が100回となる

(本名 山田 清昭 内子町在住)

# 新年度にあたり

会長 寺尾 保仁



平成29年度が始まりました。昨年度は色々忙しい年度であったように思います。木造住宅耐震診断技術者派遣事業は、県下の市町より900件余りの依頼を受けました。派遣技術者の皆様のご協力にお礼を申し上げますと共に、事務処理を行っていただいた事務局の奮闘に感謝の意を表します。

ヘリテージマネージャー養成講座においては、大変ハードなスケジュールの中、31名もの修了者を出すことが出来ました。最終回はそれぞれの調査の発表の場となり、その成果に達成感とさらなる高みをそれぞれが感じたことと思います。私もその場で皆さんの発表を聞いてその一人となりました。皆様本当にご苦労様でした。講座を企画、運営していただいたまちづくり文化財・まちづくり委員会の皆様、大変有難うございました。また青年、女性委員会の皆様の活発な活動は期待も込めて頼もしく思います。

今年度も派遣事業、ヘリテージマネージャー養成講座は継続いたしますので、皆様の参加・協力をお願い致します。ヘリテージマネージャーにつきましては、さっそく県の文化財課より、県指定の文化財の調査依頼があり、これからの展開が楽しみです。

また今年度は会費の値上げの年となりました。5月末現在においては、多少の減少はありますが、入会者の方々の数で助けられているのが現状です。皆様のご理解の賜物と感謝しております。会費の値上げで財政的に楽になるかと思いますが、それを受けて事業の一層の活性化を図らなければなりません。公益社団法人へ移行して早4年が過ぎようとしております。規約の中には、今後検

討の余地が有るものも出始めてきたと思います。皆様の活動のしやすいよう考えていきたいと思っております。今年度に士会が建築士事務所登録を取れるよう、今検討をお願いしております。行政協力の中で今はなんとか現行制度の中で行っている活動もいづれ事務所登録の必要となるケースも出てくると思います。また被災時非常時等に活用できるケースも出てくる様に思います。決して民業圧迫にならないよう、士会会員の活動レベル向上のために、貢献できるようにと思っております。

建築士会会館の建設についても、理事会の承認も頂いており早期の実現が必要と思っておりますので、目途が立ち次第進めていきたいと思っております。

会の活性化は委員会活動の活性化です。それぞれの委員会が責任を持ってふさわしい活動を行うことによって、会の活性化が図れることと思います。そうなればおのずと会員の増加も図れるのではないかと思います。また情報・広報委員会が担うこの会報誌「いしづち」が会員の皆様のお手元に届くことにより、ますます活動の輪が広まることを切に希望します。

皆様にはこれまで以上のご協力をお願い致します。



# 第13回 内子の町並みと3件の芳我家(内子町)

故きをたずねて

2

文化財・まちづくり委員会 委員長 花岡 直樹

江戸時代に木蠟の伊予晒法が内子で考案されてからは、精蠟が主要産業となり、江戸末期から明治にかけて最盛期を迎えました。その時代の多くの建物が建ち並ぶ八日市・護国地区は、国の重要伝統的建造物保存地区に指定され、多くの観光客が訪れ賑わいを見せています。

さて、「古い町並みが残る」ためにはある条件が必要です。それは、大変失礼な言い方もかもしれませんが、栄えた後急速に衰退する、ということだと思います。発展し続けると家も次々に建て替えられて町並みも時代に合わせて新しくなっていきます。ある産業で栄えただけでも工業製品に押されて一気に売れなくなる。あるいは街道の宿場町として賑わったけれども、別の交通手段が発達して人や車の流れを取られてしまう、などなど…。内子も例外ではなく、電気の普及や工業製品の蠟の開発により、需要が衰退したことによるものでした。

そんな内子の町並みの中には、本芳我、上芳我、東芳我…などのように「○芳我」という家が何軒か見受けられます。でもこれらのお宅の名字はみんな「芳我」さんです。本家の本芳我家より分家したりその子孫たちが、屋敷の位置や高さ関係からそう名乗ったものと思われる。今回はその芳我家の中から3軒を取り上げて、建てられた時代、文化財としての種類、活用方法について比較してみたいと思います。

まずは本家の「本芳我家」。明治17年建築の主屋、炊事場、産部屋・便所・湯殿、土蔵の4棟が国の重要文化財に指定されています。道を挟んだ東側に作業場・晒し場を広く構えていましたが、精蠟を廃業後売却され

ました。平成15～18年にかけて保存修理が行われましたが、現在も御当主が居住されており非公開です。

上芳我家は、本芳我より家督と金、晒し場の3割を与えられた分家で、主屋（明治27年）、土蔵の他釜場、出店倉などの作業空間や晒し場もそのまま残されていて、なんと計10棟もが国の重要文化財に指定されています。平成20～23年に保存修理が行われました。現在は内子町の管理で、木蠟資料館として一般公開されています。



上芳我家 内庭より主屋、釜場、出店倉を見る

最後に下芳我家。明治27年建築の主屋は、国の有形文化財に登録されています。こちらはかなり自由に改造・活用ができるということで、「蕎麦・つみ草料理下芳我邸」としてレストラン経営されています。

同じ元住宅でも、いろいろな使われ方があるのがお分かりいただけただでしょうか。修理して保存されるだけでなく、適切に活用されることも重要なことと思います。



本芳我家 主屋（手前）と土蔵



下芳我家主屋



# 愛媛基礎工事業協同組合の活動 4

基礎のこと

4

愛媛基礎工事業協同組合 田中 清久

今回は「設計と施工」というテーマで書かせていただきたいと思います。このテーマは前回の「適正な工事価格」と同じく熱い思いがありますので、配慮の足らない表現になったりするかもしれませんが、その時はどうかご容赦いただき、「そこに住まう人のため」「より良いものづくりのため」と思って読んで頂ければ幸いです。

あまりにも情報が錯乱しているこの基礎工事業界、いったい何が正解なのか時に分からなくなることもあります。住宅基礎には特別なルールがあると錯覚されている方も居られますが、決してそうではなく、設計や施工に関する基準が確立されていないため、設計施工の両者ともに混乱をしているのではないのでしょうか。

設計に関しては「4号特例」が原因の一つとも考えられますが、せっかくの特例も本来の趣旨に反してしまうと意味がありません。あくまでもルールに則り根拠のある設計をしたうえで特例の恩恵を受けなければ、ただの悪法と化してしまいます。

基礎に関しては建築基準法の仕様を守っているからといっても、ご存知の通りこれは最低限遵守すべき法律であり、その構造物の性能を満足するものではありません。最低限の仕様を守り、設計者がその責任のもと計算と設計を行う事を前提に、行政による審査を省略するというのが4号特例の本来の趣旨ではなかったのでしょうか。一時期、壁量計算の問題で4号特例の廃止の案も出ていましたが、廃止案そのものが消えてしまいました。それが良かったのか悪かったのかは分かりませんが、少なくとも構造的な面では改善されていたことは間違いないでしょう。

施工に関しては、その技術水準に満たない者の施工を許してしまっている建設業法自体に問題があると思います。やはり施工は施工管理技士や技能士といった国家資格者が在籍している建設業許可業者が行うべきです。何の資格も持たない者では経験や技術を裏づける知識の信憑性に問題があり、施工そのもの自体に疑問を感じずにはいられません。

また、管理者の言いなりになっている業者も少なくありませんが、施工管理をしっかり学んでいるならば、時には真正面から意見をぶつけてみる事も大事だと思います。しっかり学んでいるからこそ意見が言え、またそれに対する反論もできるのですから。

私の考える設計と施工の在り方は、請負による上下関係があったとしても技術者としての立場は同等であるべきで、より良い物を作るため、また互いに資質を高めあうために意見を出し合えるのが理想の姿だと考えています。

前述した国家資格というものは、その業務を行う上で最低限必要なもので、言うなれば運転免許みたいなものだと思います。資格を取得し実務を開始してからこそが、研鑽の日々であるべきで、決して資格の取得そのものが到着点ではないと思います。

私たち施工者は、年々進歩する技術や知識など、施工管理に関する多くの事を学んでいく責任があります。そして、どのような条件下にあっても、設計図通りに構造物を作り上げる努力を惜しむべきではありません。そしてその設計図を作成し、また管理する設計者の責任は更に大きく、学ぶべき事柄も計り知れないとは思いますが、設計側と施工側が互いの分野を理解しあう努力があつて、はじめて良い「ものづくり」ができるかと確信しています。

私たちが学ぶべきことは、おそらく一生かかっても覚えきれない量なのかもしれません。

それでもその道のプロとしての責任を果たす上で必要なことだと思います。

今後、愛媛基礎工事業協同組合として、建築士の方々と勉強会を計画し、何が正しくてどうあるべきなのかをきちんと整理し、設計施工基準を作成し発信することができればと考えています。

設計も施工も一丸となって、「そこに住まう人のため」「より良いものづくりのため」に歩みを同じくすることができれば、どんなに素晴らしい業界となることでしょう。



# お米づくりから

今治支部 橋詰 飛香

今年もそろそろお米づくりの準備を始めようかと、夫婦ふたりで話し合う時期がやって来ました。我が家は自然農法での自家消費分だけのお米をつくっています。不耕起での自然農法は収量も少な目と言えますが、精神的な実りが大きくお米づくりを続けています。自分がつくったお米が食卓にのぼる喜びは、作った人だけにしか味わえない特別なものです。主食であるお米をつくる事が出来るという安心感は、太古の昔から稲作をしてきた日本人のDNAに刻まれた、細胞レベルでの喜びなのかもと感じます。お米づくりのための準備をはじめると、何故か心が安堵します。

そもそもお米づくりを始めたのは、土壁や畳には欠かせない無農薬の安心な『藁』が欲しかったからです。機械化が進み多くの稲藁はコンバインでお米の収穫とともに粉碎されて田圃へと帰されます。又、無農薬の安心な藁が入手出来ないといった現状に「自分達で作ろう!」と、血気盛んな頃でした。



土壁に使われる稲藁の量は半端でなく、畳に使う藁とともに、とても自然農法で夫婦ふたりでは賄えない量です。土壁には藁を混ぜ込んで1年ほど熟成をさせて使います。その間何度も何度も藁を足して、藁が髪の毛のような繊維になるまで荒壁土を寝かせます。こうする事によって繊維となった藁が土壁の繋ぎ役となって、割れにくい丈夫な壁となっていくのです。熟成土の良さは分かって、なかなかこういった仕事に手を掛けてくださる左官職人があまりいないのが現状です。

稲藁の入手も難しくなりつつある今、土壁も畳も失われつつあります。でもやっぱり壁の心地よさは土壁に勝る物なしと断言できます。設計者として私自身が石膏

ボードを使わなければいけない時が来たのなら、もう設計を辞めてもいいとまで思います。それぐらい心地いい壁だから無くしてはいけないし、この心地良い壁を知ったからには後には戻れない。

畳はさらに圧倒的な藁の量が必要となります。幾層にも重ねられた藁を糸で締め固めていって藁が圧縮されて藁床が出来上がるから、この使う量といったら土壁を越える量となってくるかもしれません。それでも今時の家は畳も少なくなって8畳あれば良いところ。昔の住まいは各部屋は畳で、台所の小上がりや縁側、納戸が唯一板間の造りでしたから今とは大違い。我が家の畳の枚数は36枚、やっぱり今とは桁違いです。藁床はあまり使われなくなり、建材床が主流の現代です。でも藁床畳のなんとも言えない弾力と柔らかさは、建材床の感触とはまったく異にする感触。きっと建材床の畳しか知らなかったら、畳の本当の心地よさは知らないで終わるのかも、そう思うとやっぱり住まいには本物をちゃんと使っていかないと良さが伝わっていきませんね。

でも土壁をするにしても畳をつくるにしても藁が無いなんて、なんだか足元を脅かされている感があります。そう思って始めたお米づくり。最初は稲藁が目的だったけど、今ではこの時期がくると「やらねば」という風に、この辺り集落の人々と同じ気持ちになってしまうのがお米づくりの不思議。昔から繰り返されてきた連綿の血を私のなかにも感じます。

田んぼでの作業は無になれる作業です。作業中、おにぎりや類張りながらゆっくりとした時間が流れていく。生きていくため食べていだけなら、これで十分。なのに・・・なんて人間って無駄な動きにいつも翻弄されている生き物だろうか・・・と田んぼではいつも感じる事。

この家づくりを始めた当初、長期的な家づくりで果たして生活していけるかという不安があったけれども、お米づくりをして食べきれない程のお米が家にある安心感は、どこか私達を不安から払拭してくれたと思う。むしろ生きるために全てを買わないといけない時代は、脆い。常にお金の不安が心に付き纏うから。世間の騒がしい騒音から心まで解き放たれて、生きるためのお米をつくる。田んぼは幸せなところだと感じ、また今年も。

一度、一緒に作業をしてみませんか。

# フランク・ロイド・ライトの 建築見学 03

宮地電機株式会社 田部 泉

フランク・ロイド・ライトの直接の設計ではありませんが、弟子である遠藤 新（1889～1951）の設計により、1930年に甲子園ホテルとして竣工しました、ライトの雰囲気を感じられる建築デザインです。ホテルとしてはわずか14年間の営業で、1965年より現在の武庫川女子大学の甲子園会館として利用され、2007年に国の近代化産業遺産、2009年に国の登録有形文化財に登録されています。



正面外観



裏面外観

建物の外観の中央部分は低く抑えられ、直線的な水平なラインとその両側に象徴的な高い塔が印象的です。日華石やタイル、コンクリート、金属、ときに照明素材としてのガラスや和紙などの素材による建築表現や連続性のあるディテールのデザインは、見ていて飽きないデザインは圧巻である。

玄関を入ってすぐのホール（廊下）の照明は、竣工当時の貝殻をモチーフにしたシャンデリアとブラケット照明で明るさを取り入れている。現在の建築物の多くはダウンライトを多灯していますが、明るさ感や省エネルギーの観点から、効率的にも、雰囲氣的にも良さを感じる。



■玄関ホール：シャンデリア、ブラケット

ホールの奥にある中庭を展望できるロビーは、貝殻デザインの大型シャンデリア2基と柱に同デザインのブラ

ケット2台の照明が取り付けられている。窓から差し込む自然光と人工光のコントラストが心地よい。



■ロビーのシャンデリアとブラケット

噴水がある小階段ホールのサイドライトの5つの小窓が気になり確認をすると、ある時間帯に自然光が噴水に差し込むように計算されている演出をしているらしい。



■噴水がある小階段ホール

地下のホールの照明は、和紙を格子の表貼りと裏貼りをして、光透過の変化のある濃淡様子を活用した光天井照明で、洋風な空間に和風な光天井がデザインされている。



■ホール：格子枠に和紙貼りの光天井照明

■【情報】フランク・ロイド・ライト生誕150周年記念事業の「スケジュール」

- ・6月7日(水) 祝賀パーティー 自由学園明日館ホール
- ・9月29日(金) 東京 記念事業
- ・10月1日(金) 名古屋 記念事業
- ・10月5日(火) 大阪 記念事業

お問い合わせ 堀 静夫 T/F：042-623-9591  
hori@wws-jp.org 以上



# 心の新陳代謝

松山支部 玉乃井 公和

偶然も含めた出会いというものを、その背後で操っているであろう「縁」は、人と人との間にのみにはたらくのではなく、それは例えば時間つぶしに本屋さんでウロツク人と、本との間にもはたらくような気がします。つまり、あれほどたくさんの文庫本が並べられている本棚の、その背表紙の小さな文字の一つに目が止まるというのは、もうこれは「縁」としか言いようがないのではないかと思うのです。

しかもその背表紙の、「生物と無生物とのあいだ」（福岡伸一 著）などという、殆んど自分には縁もゆかりもなさそうなタイトルに目が止まったということは。

何年か前にこの本を買って、初めて私は分子生物学という分野があることを知ったくらいですから、科学や物理といった方面の私の知識たるや、もう“GL 以下”にあったということであり、又今もあり続けています。

ただ、そうした自分には属さない分野ながらも読み進めて行くと、何やら面白そうな雰囲気だけは感じ取ることができて、次にまた福岡先生の「動的平衡」という本を目にした時には、少しワクワクしながら買って、一気に読んでしまったものでした。一体この本のどういったところが面白かったのか、ここで一部、その内容を引用してみます。

**生体を構成している分子は、すべて高速で分解され、食物として摂取した分子と置き換えられている。身体あらゆる組織や細胞の中身はこうして常に作り換えられ、更新され続けているのである。だから、私たちの身体は分子的な実体としては、数か月前の自分とはまったく別物になっている。（中略）つまりそこにあるのは、流れそのものでしかない。その流れの中で、私たちの身体は変わりつつ、かろうじて一定の状態を保っている。その流れ自体が「生きている」ということなのである。**

と、少し長い引用になりましたが、私達が絶えず食物を摂取し続けるということは、この「流れ」をつくるためである、ということなのだそうです。

人が生きるためには、身体の絶え間ない高速の新陳代謝

をし続ける必要があるということです。

外見で見れば、一分一秒の間に人がそれほど変わって見えることはありませんが、身体の内部では細胞が絶えず高速流転している。そうしなければ人は生きられない、と。

「で、それが住まいの設計と何のかかわりがあるのですか？」

と、ここまで引きずって来れば、ごく素朴な疑問が湧いてくるかも知れません。

その疑問に対して「何のかかわりもござんせん」と、昔のTV時代劇の「木枯し紋次郎」（古い！）風の答え方をすればお叱りを受けるかも知れませんが、これもごく普通に見てみれば、直接的には住まいの設計とは関係ありません。

ただそれも、私の得意な詐欺師的牽強付会のアイテムを使ってこじつけをしてみれば、大いに関係してきます。ここからはそのアイテムを活用して、“人の生き方”をもとにした住まいの設計を考えてみたいと思います。

先の「動的平衡」に書かれてある、人が生きている状態というのは、厳密に言えば“人の身体が生きている”状態のことである、と言えるかと思えます。人にはそのように「形」として絶え間なく流れ続けている、或いは流れ続けるしかない、という“生き方”があるとともに、もう一つ忘れてはならない“生き方”があります。

それは「色心不二」の言葉にある通り、人には心があり、“心としての生き方”もあるということです。そしてこの“心としての生き方”の有り様が分かれば、それをより豊かな住まいづくりに生かすことができるのではないかと私は思うのです。

とは言ってはみたものの、「それでアンタに人の心が見えるのか」と言われそうで、現実にはそれは雲をつかむ様な話で、何とも捉え難いものがあります。

そこでこの“心の生き方”につきましては、先の福岡先生の「動的平衡」での身体の“生きている状態”を参考

にして想像してみたいと思います。

先の“身体の生き方”をおさらいしてみれば、身体は食物を外部から摂り入れることにより、絶えず新陳代謝を繰り返す、その不要になったものを流し去ることによって「生きている」、と言えるのだらうと思います。

この身体のメカニズムを心にも当てはめて見てみれば、心には身体のように外部から形ある物を摂り入れて細胞の流れを作るようなメカニズムはありませんが、見たり聞いたり等の、外部からの何らかの“刺激”により、喜怒哀楽という感情が湧き上がる“メカニズム”があるのではないかと思います。

この喜怒哀楽の感情の中には、それをいつまでも心の中に止めておくと、心が生きて行く上で害になるものもあります。心が文字通り、心地よく「生きている」状態を保つためには、そうした心にかかるストレスを流し去る必要があります。

つまり、身体で行われている新陳代謝と同じく、心においても「心の新陳代謝」がごく自然に行われる必要があるのではないかと私は思うのです。

そしてこの「心の新陳代謝」が行われること、即ち心にかかるストレスを流し去ることができるものは何なのか、と言うと、それは「忘れる」ということではないかと思えます。

そしてこの想像を、住まいの設計へと挿入してみれば、住まいに求められる大事な“機能”として、この人の心が「忘れる」ことができる場があること。即ち住まいの内外に、人の心が安らぎ、心地好さを感じ続けることのできる、「豊かな空間」をつくるのが求められるのではないかと思います。

その「豊かな空間」を現実的にイメージしてみれば、家族が付かず離れず一つ屋根の下で、自然にかかわり合うことができるように設えられた「空間」であったり、また光や風や緑などの自然と、ごく自然にかかわり合うこ

とができるように設えられた「空間」であったり、そして一個の家のプライバシーが保たれつつも、うまく街とかかわり合うことができるように設えられた「空間」などを、私はイメージしています。

つまりそれは、以前にも書きました「チョーカンタンな住まいの設計」の中の、「人と人との縁」「人と自然との縁」「一個の家と街との縁」が設えられた、「三縁のある家」になります。

その何気ない、人や自然や街とのかかわり合いの中で、フッと「心ここにあらずの状態」になることができたなら、その時、一時的にせよ人はストレスを「忘れる」ことができるのではないかと。

うまくすればそれで、ストレスを流し去ることができるのではないかと、私は想像するのです。

そして住まいには、そのような人の心が気を取られる、絶えず新しい「気」が流れ続けているような「豊かな空間」が、本当は一番に求められるのではないかと思います。

そこで「気」が抜けて行き、フッと「忘れ」、心が「安らぐ」ことにより、「心の新陳代謝」が自然に行われ、そこからまた新たなエネルギーが湧いてくる。

つまり住まいの設計とは、決して間取りのパズルをすることでも、建築雑誌に掲載されている流行りのデザインをコピペすることでもない、人の身体と心のために、「明日へのエネルギー」を生み出す場を設えることである、とロマンとしても現実としても私は思うのです。

福岡先生の「動的平衡」からのこの牽強付会やら我田引水の住まいの設計の有り様、うまくつながったでしょうか。最後はちゃんとマジメに、建築家ルイス・カーンの“詩”を一つ。

**つまり建築家は空間の美を伝える人です。空間の美とは空間の意味であって空間が意味に満ちているということです。**

**(ルイス・カーン建築論集 鹿島出版会)**

# 平成29年度 愛媛県建築士会 今治支部通常総会報告

今治酢部 今治支部長 石丸 真智子

日時：平成29年4月28日（金） 18：30～  
場所：今治国際ホテル ダイアモンドの間  
出席者数：44名（委任状62名）  
司会者：池川拓哉氏  
議長：支部長

今治市長 菅良二さま、参議院議員 山本順三様秘書 廣川さま、愛媛県会議員 本宮勇さまを来賓にお迎えし、上記通常総会を開催しました。支部長挨拶の後、菅市長、本宮議員から祝辞をいただき、以下の議事を審議しました。

第1号報告：平成28年度実施事業報告  
支部主催の主な実施事業は

- ① 熊本地震現地報告会及び防災関連講習会
- ② 「おかしなまちをつくろう」（建築士の日の行事）
- ③ 「いまばりのまちにこんな建物があつたらいいな」  
絵画コンクール、募集、審査、展示、表彰
- ④ ゴルフコンペ
- ⑤ ボウリング大会

第2号報告：平成28年度決算報告  
第3号報告：監査報告（野村文昭 会計幹事）

第1号議案：平成29年度事業計画案審議  
支部主催の主な実施予定事業は

- ① 建築見学ツアー
- ② 「おかしなまちをつくろう」（建築士の日の行事）
- ③ 地域建物遺産（今治ラジウム温泉）調査・顕彰
- ④ 会員交流のためのレクリエーション

第2号議案：予算案審議

以上、5つの報告と議案の審議は全て滞りなく進められ、承認されました。そして、森昇平副支部長の閉会の辞の後、懇親会にうつりました。

懇親会は近藤佳代副支部長の挨拶、松田俊彦相談役のご発声で歓談が進んだところで、恒例の賛助会員さんの紹介（進行役は曾我部準副支部長）があり、参加された賛助会員さんの方々より、それぞれの業界（企業）の悩み（？）や、PRをユーモアを交えて披露していただき

ました。和やかに歓談が続き、締めくくりの万歳三唱は瀧本和浩副支部長の発声が続いて行われ、無事閉会となりました。



（菅今治市長の祝辞）

さて、今年度の地域貢献活動のメインは「今治ラヂウム温泉」の調査と図面作製です。活動の序章として、連休中の5月6日（土）に支部会員有志が集まって、一般公開のイベントに参加しました。大野順作、笹木篤 両氏の案内により、これまでの調査、考察の説明を聞き、建物の魅力が奥深いものであることを知りました。オーナーからも「存分に楽しんで、謎解きに挑戦してください」とおっしゃっていただき、楽しい活動になると確信しました。

この活動に興味を持って、ご参加いただける方は（他支部の方も歓迎します）今治支部事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。



（今治ラジウム温泉内部）



# 松山支部青年・女性委員会報告

## お片付け提案ができる建築士へ

松山支部 青年女性委員会 副委員長 大内 雄志  
 開催日 3月11日(土) 16:25~18:00  
 講師 株式会社クラス 代表取締役社長 矢野陽子  
 場所 愛媛県林業会館 大ホール  
 参加者数 21名(懇親会16名)

去る3月11日(土)、H28年度第三回松山支部青年・女性委員会主催の勉強会を開催致しました。今年度最後となる勉強会は、(株)クラスの矢野陽子講師をお招きし「建築士が語る、家を建てる前に考える整理収納術」です。身近なテーマでありながらなかなか実践が出来ない「お片付け」。まさに目からウロコの勉強会となりました。どうしても捨てきれず物が多くなり、収納スペースを大きく計画してしまいがちな新築住宅で、整理収納術をうまく活用しながら小スペースでもすっきりした快適な住宅を提案する、さらに引渡後もお施主様へ一歩先を進んだ整理収納術をアドバイスすることにより、さらなる密接な人間関係を持続することが可能となります。「実際に財布を整理してみよう。お財布が整理できたら今度は小さなクローゼット…」というように少しずつその範囲を広げていくことで無理をせず整理収納術を身に付けていくというアドバイスをいただきました。

また勉強会の後、「使ったものは元の位置に戻すルール」を部屋の一部で実践してみたところ、部屋を散らかさないだけでなく、すぐに何がどこにあるかがわかるので探すことも少なくなりました。自分自身も整理収納術の第一歩を踏み出すきっかけとなる勉強会となりました。

この度勉強会へご出席いただきました方々、誠にありがとうございました。H29年度も引き続き勉強会の開催を計画しておりますのでぜひご参加いただきますようお願い致します。また講師をいただきました矢野様、誠にありがとうございました。引き続き建築士会の活動等いろいろとご相談をさせていただきます。



「お片付け提案ができる建築士へ」勉強会

## お花見報告

松山支部 近藤 岳志  
 愛媛県建築士会松山支部 青年・女性委員会主催のお花見が4月8日に開催されました。

お花見と言いながら、すでに桜の時期は過ぎつつあり、屋外ではなく、室内で開催されました。唯一、お店の名前が「bar hana」という素晴らしい演出です(笑)。年度初めのお忙しい中、多くの方にご参加頂きました。



(メンバーに綺麗なお花が隠れております)

長岡委員長から、平成29年度青年・女性建築士の集い 中四国ブロック鳥取大会のお知らせもあり、愛媛県や松山市以外の建築士との交流の重要性について熱弁をふるわれておりましたが、実は長岡委員長は一度も参加された事が無いそうです(笑)。



(初めてご参加頂いた方もいらっしゃいました)

今回、新規に建築士会にご入会頂いた方も多くご参加頂き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今回に限らず、多くの勉強会や懇親会を計画しておりますので、今後も青年・女性委員会の活動にご参加頂ければ幸いです。

今後ともよろしくお願いたします。

# BIM(ビム)の勉強会報告

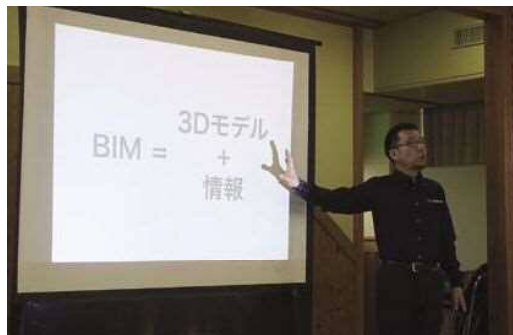
松山支部 近藤 岳志

平成29年5月20日(土) 13:30~17:30  
愛媛県林業会館 大ホールにてVectorworks BIM  
CAMP(木造)松山が開催されました。



(多くの方にご参加頂きました)

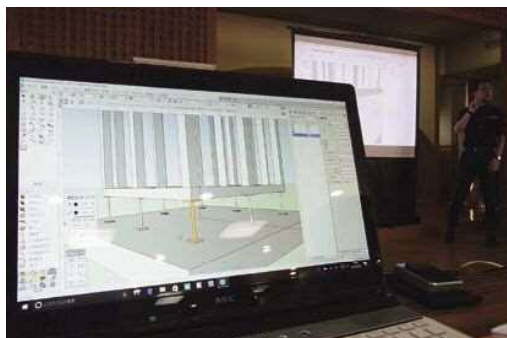
BIM(ビム)という言葉をよく聞くようになったと思いますが、設計業界は、ここ数年でBIMの設計手法に激変すると言われております。欧米の建設業界では現在、すでに7割がBIMを使用しており、日本国内の官公庁工事でもBIMの設計手法によるデータ提出が求められてきている事案も東京を中心に増えてきております。



(BIMとは何か?)

今回は、ベクターワークスというソフトを使って、木造2階建ての住宅を実際につくる作業を行いました。

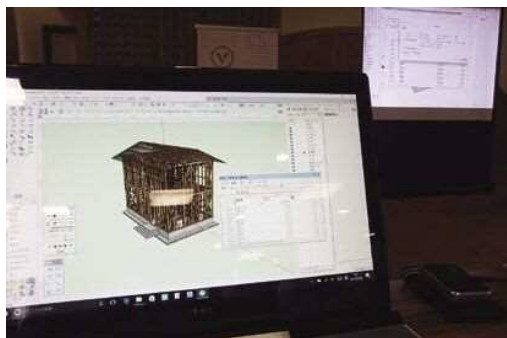
多くの建築関係者は、二次元の世界で、図面に1本1本引く作業を行いますが、BIMの設計手法は全く違います。コンピューター上で、基礎や、土台、柱等の構造から、窓や階段等の情報が入った立体の三次元モデルを作成し、そのモデルを上から見たり、横から見たり、モデルを切って見たりすることで、図面を「書く」のではなく、「取り出す」という作業になります。例えば、三次元モデルを作って、図面を50枚取り出しているとしたら、図面に変更が発生した場合は、図面を1枚ずつ直すのではなく、三次元モデルを修正することで、関連している全ての図面が修正され、不整合の無い図面が出来上がります。ただし、通り芯や寸法線は、取り出した図面に付加したり、変更したりする必要はあります。



(鋼製床束を書くのではなく、適切な場所に置いていく)

私事ですが、弊社では住宅等の設計図面の作業は、ベクターワークスのBIMのツールを使って、実施設計の作業まで行っています。三次元モデルを作るのは、慣れるまで大変ですが、とにかく修正作業が早く出来て、不整合の無い図面が出来上がることで、現場でのトラブルや、図面の不整合に対する問い合わせは激減しました。

また、二次元の図面ではイメージが伝わりにくくても、三次元だとお客様にも理解してもらいやすくなります。



(木造の軸組だけ見せる)

勉強会終了後は、懇親会が開催され、これからの設計手法やBIMの可能性について議論が交わされました。



今回の勉強会は、イーアンドイー株式会社さんにご協力頂き、盛大に開催することが出来ました。この場をお借りして感謝申し上げます。



# 建築パースと私

新居浜支部 中川 仁

宮崎秀俊さんよりバトンを受け取りました。

「何か一つは絵を描いてくれるでしょう」ということですので、1枚描こうと考えていました。ふと考えてみるとなぜスケッチとか描くようになったのだろうと思うようになり、今回はその辺を含めて思い起こしていこうと思いました。

仕事柄よくパースを描いたりちょっと絵を描いたりします。お客様の前でキッチンの説明や収納の説明玄関のイメージなどもそうです。

CGがないところは手描きで外観のイメージなども描いたりしておりました。



もともと絵を描くのが好きで、小学校ころは漫画家になりたいと思っていました。

遠近法は、その頃赤塚不二夫の漫画家入門の本が売っており、その中の最初のページにでており、そこで覚えました。建築パースは松山工業の建築科の先生に教わりました。当時パースは今でないと教えれないと言われた記憶があります。もともと絵を描くのが好きな私にとって空間を立体化し着色するというには凄く興味がありました。しかし建築パースは建物よりも添景が難しく、建物の窓の奥行き感を表現することや、道路の写り込みなども難しかったのですが、それよりも樹木や人、車を描くのが凄く難しく、水彩で描くと仕上がり感が随分変わります。コツを覚えるのが難しくかなり練習しました。また高校の3年生の夏くらいからは、松山の当時、パースの会みたいなのがあり、生徒に教えてくれるなら製図室を使っても良いということで、卒業までの半年は、放課後に本格的に教えてもらいました添景が、うまく描けるようになると仕上がり感が随分変わり、卒業時期にはNHKのロビー展に1枚出展させていただきました。

次のパースは高校の3年生の2月18日に描きかけのまま残っているものです。当時は1枚目にさっと通して1



枚仕上げ、2枚目でキッチリ描くというやり方をしていましたが、その1枚目のものです。

もう37年前になります。建築パースはパソコンで描くのもそうですが、住宅くらいであればお客様のプレゼンにもよく使います。最近は手描きパースということが社内でもよく言われます。パースコンペなども行われており、今でもその人の個性が出て、以前であれば手描きの図面のように、図面を見れば誰が描いたのかわかったように特徴が出てきます。さて樹木などがうまく描ければ風景スケッチなどもうまくかけます。ハガキクラスの大きさですが、自分の中では下絵は描かず一気にペンで仕上げます。一枚に15分から20分くらいで描きます。Hi-tec-cのペンを使うことがほとんどですが、自分の場合ペンの太さや鉛筆、サインペンの種類でも絵の感じがガラッと変わります。最近では0.4ミリで描くことが多くなってます。今日描いている絵は0.4ミリです。ハガキサイズなので少し絵を省略気味で描いてます。着色するかどうかは最初に決めておきます。今回は大体20分位かかっています。



次にバトンを渡すのは、同じく新居浜支部で活躍中の政石信行さんです。



## 五角形の洋館

松山支部 山本 晶子

この度、八幡浜支部の繁木さんよりバトンを受け取り「けんちくの輪」に登場することになりました。私も元は、八幡浜生まれということもあり、まんざら縁のなかったわけではないようです。

私が、建築に興味を抱くようになったのは、私が生まれ育った家がルーツのようです。

私の家は、大黒町という八幡浜の昭和30年代当時中心部の商店街にあり、とても賑やかな街並みの中、商いをする家だったため、1階がお店で2階が住まいの大きな家でした。

その大きな家を設計したのが当時八幡浜におられた松村正恒先生だった、というのを知ったのは私が大人になってからのことでした。

私が中学2年の夏に松山に引っ越してきたので、その家の写真はすべて人が写っている写真しかなく、建築写真として見られるものは何もなくとても残念です。

今思えば、どうして写真を撮っておかなかっただろうと悔やまれてなりません。

どうか私のつたない文章でその家を思い浮かべてください。

昭和25年に建築されたその家は、角地にあるため隅切りをそのまま家の外観にした五角形の家で、商売をするため1階はとても広い空間の真ん中に円柱のコンクリートでできた鉄板巻の直径80cmほどの柱がありました。裏には炊事場と茶の間。中二階にはトイレと大きな檜風呂があり、階段下の物入れはもっぱら子供の遊び場でした。

2階には、ピアノのある8畳の応接間、6畳の和室が二間、8畳の立派な床の間のある客間、客間と和室の間には緻密な欄間、そして私の部屋にもなった三角廊下、2階にもトイレがありました。今思っても立派な床の間だったと思えるのは、2階にあるにもかかわらず本床で床柱が百日紅、床板がかえでという、たいそう珍しいものでした。違い棚にも彫り物がしてあり、床脇には付書院があってその横には三尺ほどの廊下が三角廊下へとつながり、小学校5年生からのわたしの勉強部屋になりました。また、2階の窓すべてが出窓になっており、そんな思いもかけない空間で育ったせいか、自由な発想の人間に育ってしまいました。

何と言っても、愛宕山から海の方を見ると一目で自分

の家を探す事ができる（五角形の屋根の洋館だから）のが嬉しかった思い出でしょうか。本当に楽しい家だったと思います。



昭和26年頃の我が家

私は、以前から建築の仕事には携わってきておりましたが、建築士会には所属しておりませんでした。仕事柄建築事務所にお邪魔することが多くなり、5年前、それならば私も建築士会に入会してみようと思ったのと、以前から強く入会を勧めていただいていた故葛原さんがいらしたからです。入会後は、地区も離れてしまいましたが、仕事の合間お邪魔することも多く、いろいろと勉強させていただきました。

それに、仕事には大変役に立っていると思います。

また、私は松山南地区に所属していて、女性会員も多く、とても頼もしい諸先輩方がいらっしゃる地区で、特に活動の盛んなところです。南地区・東地区合同の「防災セミナー」を年に3~4回公民館等で行ったり、そのための耐震模型を製作したりと活発に活動しております。

また、2013年の建築士全国大会島根に参加し、各県の方々の活躍を自分の目で見て感動し、姫路・神戸・高松などの松山支部研修旅行にも参加して、楽しみながら学べるこの建築士会が大切なものになりました。この建築士会を通じて何か社会に貢献できればいいなと考えています。

「学びながら社会貢献」これが今後の私の目標です。

では、次回はダイキの成松さんをお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

## あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、広く異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしていきます。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。  
(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承下さい。)

「いしづち」の本年度の原稿締切日

平成29年 9月号(118号)

平成29年7月20日(休)

※ 校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※ 1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかも知れませんので、予めご了承下さい。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がれば、と願っています。

情報・広報委員会

## 読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せ下さい。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛

— FAX 948-0061 —

## 編集後記

「追悼・越智麻衣 さん」

年齢からすれば、私の娘のような若さで、長年広報委員に携わっておられました越智麻衣さんが、四月満開の桜のころに亡くなられました。

昨年の秋に、「いしづち 縁会」の企画が持ち上がった時には、どちらかと言えばもの静かな越智さんが、一番乗り気になられて皆楽しみにしていたのですが、それも叶わぬこととなってしまいました。

それでも、魂の「輪廻転生」を信じれば、また違う時代の

この世のどこかで、ご縁があるかも知れません。

今はただ、ご冥福をお祈りするばかりです。

(玉乃井 公和)



越智さんから写真提供された表紙の号

## 〈いしづち〉2017/7

平成29年7月発行

発行人 **会長 寺尾 保仁**

発行所 **公益社団法人 愛媛県建築士会**

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5

TEL (089) 945-6100 FAX (089) 948-0061

http://www.ehime-shikai.com E-mail: info@ehime-shikai.com

印刷所 明星印刷工業株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員 長 玉乃井公和 副委員長 大上 恵子

編集委員 渡邊 道彦 山本 晶子 大平 将司